

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570700247		
法人名	社会福祉法人黒潮会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	宮崎県串間市大字南方4201番地 (電話) 0987-71-1172		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】 (平成21年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 6年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤6人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年5月30日現在)

利用者人数	18名	男性 6名	女性 12名
要介護1	4	要介護2	2
要介護3	8	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.1歳	最低 73歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島医院、岡村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街の一角に位置し、通りにはあじさいが連ねて植えてあり、ホームへの道しるべにもなっている。近郊には海や山の香りが漂い、季節がらうぐいすの泣き声かとめどなく聞こえる、恵まれた環境の中で利用者が生き生きと過ごされている。ホームの入口には豪華な門のたたずまいがあり、一人ひとりが「自分の住んでいる家だ」とすぐ感じる工夫もある。午後の散歩を複数の利用者が日課として自主的に行っている。コースはオリジナルで、かなりの勾配のある高台を目指す健脚には目を見張るものがある。高台からは太平洋が一望でき五感を働かせる事が出来る最高の散歩コースである。職員は、その様子を遠巻きに見守支援を行っている。また、利用者本人の居室から手の届く位置に手作りの鉢植えがあり、見事にミニトマトやスイカが実り、皆で鑑賞し楽しんでおり、アットホームな感じである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホーム独自の理念が作成されているが、掲示方法について課題が残り、検討の結果、玄関の見やすい所にも掲示されるようになった。介護計画に沿ったケアをするための書類の整理が課題となっていたが、確認しやすい工夫がなされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 作成にあたっては全職員で取り組んでいる。また、市との連携も更に深めて行くため、ホームの現状や取組を、市へ積極的にアピールしていく姿勢へも今後期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 認知症介護について地域の理解を深めるため、これよりも更に地域との連携を密にし、認知症の理解や認知症ケアについての取組に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 外部からの意見や苦情は、苦情処理ノートに記入し、サービス向上委員会で検討される取り組みができています。また、運営推進会議や家族会等を利用し、苦情や要望等が出しやすい状況を作り出すよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも加入し、地域の清掃や行事には積極的に参加を行っている。また、野菜の苗等を行きつけの店に買いに行き、顔なじみの関係もできている。踊りのけいこ場も近くにあり、けいこの後にはホームまで地域の方から送ってもらうなどの協力をいただいている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に対する尊厳等が盛り込まれたホーム独自の理念を、わかりやすい言葉で作成し、誰でも見やすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識し、全職員で理念の理解や共有を確認し合いながら日々の活動の中にも生かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	長年培ってきた地域住民との交流は、住民の方々のホームに対する理解も深く、自然な形で協力してもらうなど良好な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解したうえで自己評価が作成され、また、外部評価により改善が求められた際は、全職員で検討し改善へ向けての取り組みもできている。		

宮崎県串間市 グループホームのぞみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームにおける日々の活動内容、利用者の状態などを中心に報告するとともに、会議の参加者から質問や意見を受けるなど双方向的な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で市とのつながりはできているが、自主的に行政とのかかわりを持つ姿勢の取り組みが少し乏しい。	○	ホームの実情や自主的なケアサービスの取り組みを折にふれ行政に伝え、地域の人たちと学んで行く取組に努めながらホームをアピールして行く積極的な姿勢に今後期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報誌「のぞみライフ」の発行や電話、手紙等を使って、利用者の暮らしぶり等を家族へ報告している。特に金銭管理については、重要事項の規程を踏まえて出入金記録を作成し、家族に報告・同意をもらうなどの取組ができている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族等の意見や苦情は、「苦情処理ノート」に記載して、サービス向上委員会で検討し、その内容を外部にも報告する等の取組もあり、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内異動については、あらかじめ勤務シフト等で調整し、早めの説明を行う等、利用者へのダメージを防ぐ配慮がうかがえる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、一定水準のサービスの維持やサービスの向上を目指し、日常的に絶えず話し合いが行われている。外部研修に参加した職員は職員会議等で報告し、全職員で共有化し実践に生かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム連絡協議会を通して同業者との交流ができており、連携を取りながらスキルアップにも努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前にホームに来てもらったり、事業所の多機能性を生かしてデイサービスを利用しながら、徐々にサービスの場になじみ、本格的な利用に移っていける等の取り組みができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との対話や接遇の中で、利用者からの教えを大事にしながら生活支援に役立っている。特に料理方法や掃除、昔の行事等を教えてもらいお互いに教え学び合う関係も築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、利用者一人ひとりの思いや意向について関心を払い、日々のかかわりの中で声掛けするなどして把握に努めている。また、ケアプランにも本人や家族の主訴が反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、24時間シートを含め職員で意見交換、モニタリング、カンファレンス等で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、カンファレンス、モニタリング等で3か月ごと、定期的に見直す取り組みもできており、随時の見直しについても状況に合わせたプラン作りができています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のニーズに合わせて通院介助、送迎サービス等を行い、多機能性を生かした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの掛かりつけ医は、7割近くが入居前からの担当医で、その掛かりつけ医とホーム関連医療機関との連携も取りながら、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受け、重度化した場合の対応については、掛かりつけ医を中心とし本人、家族、職員、その他関係者と早い段階から具体的な話し合いを行い、方針を共有する取り組みができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、利用者の日常の活動の中にも人権や誇りを損ねる事がないよう、利用者の立場に立った丁寧な言葉かけや対応に配慮し、プライバシー確保の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースで無く、一人ひとりが本来持っているペースや望んでいるペースに合わせ自然な流れの中で、ゆったりとした暮らしの支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒になって食事の準備や食事、さりげない職員による食事の介助、片づけ等ができており、楽しみながらの食事の支援ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のニーズに合った入浴方法が取られ、残存機能を生かした介助がなされている。また入浴拒否の対応については話し合いをし、タイミングに合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの近くに踊りの稽古場があり、そこへ歩いて通っている利用者や、自主的に散歩を日課とされている人、家庭菜園に興味を持つ人など、さまざまな利用者に対し楽しみ事や気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	あらかじめ計画された決まり事や日課として外出するのではなく、その日の状態や希望に応じて利用者が自主的に出かけ、散歩等を日常的に楽しめるよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけないケアを深く理解し、日中は出入り口の施錠はされておらず、利用者が自由に出入りできるような取組となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対策はホームの運営規定にも明記されているとおり、あらかじめ対策を立て少なくとも月1回は利用者及び職員共同での消防訓練が実施されている。また、地域との協力関係については日頃からのかかわりの中で構築されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食材が多く取り入れられ、水分確保についても詳細にケアチェック表に明記し、それらを基に法人母体の管理栄養士を中心に摂取確保にも取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニットの中心の空間には、採光の良い中庭がつくられ花木が植えられている。利用者はくつろげる畳の部屋より観賞にふけています。また、思い思いに過ごせたりお互いに距離感をもって過ごせる場所確保等の配慮もあり、居心地良く過ごせる工夫はできている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理タンスやテーブル等のなじみの物を持ち込み、その人らしく過ごせる部屋になっている。		

※  は、重点項目。